

熊本地震復興支援ボランティア

代表者 松田 明子 (工学部安全システム建設工学科 4 年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、2016 年熊本地震の被災地域の復興支援活動を行うと同時に、香川大学生の防災意識の向上を図ることを目的として、益城町の仮設住宅である「テクノ仮設団地」にて「工作教室」及び「うどん作り教室」を開催したものです。実施活動に工作教室とうどん作り教室を選んだ背景として、活動先の仮設住宅では高齢者の孤立や子供の遊び場の不足などが問題となっており、現地のニーズとして「高齢者から子供までが楽しめるイベントを行ってほしい」「香川県の魅力を生かした活動を行ってほしい」という要望が多かったためです。



集合写真（青のビブスは熊本大学・熊助組）

もう一つの目的として大学間連携があります。熊本地震発生直後から、熊本地震の復旧・復興支援活動を行っている熊本大学「熊助組」の学生と連携して活動することで、被災地域において大学生に求められることを知り、学生主体の大学間の連携を強めることを目指しました。熊助組とは昨年度から継続的に連携して活動しており、今回は準備段階から現地のニーズ調査などで協力していただきました。

2. 実施期間（実施日）

平成 29 年 8 月 9 日～平成 29 年 8 月 10 日（2 日間）

3. 成果の内容及びその分析・評価等

活動一日目の工作教室では、子供から高齢者まで楽しんでいただくために、こちらが準備していた牛乳パックの紙ヒコーキに加えて、熊本大学熊助組の学生に協力してもらい、折り紙教室も同時に開催しました。小学生を中心に高齢者の方にも参加してもらい、全体で 30 名程度



工作教室 活動風景

の参加者に楽しんでいただけました。

二日目のうどん作り教室において、うどん作り体験では 35 名程度の方に参加していただき、その後うどんを食べるために来ていただいた方を含めると最終的に 80 名を超え、うどんも 80 食以上を提供することができました。仮設団地の方々からは、「本場の讃岐うどん作りを体験できてよかった。」という意見や「年寄だから遠出はできないけど香川のうどんが食べられてよかった。家族に会ったら話して聞かせたい」といった意見をいただきました。熊本大学の熊助組の学生からも、「参加者が楽しそうに活動している。香川の魅力を生かした面白い活動ですね」という評価をいただきました。



うどん作り教室・活動風景(最終的に 80 名以上の方に参加いただけた)

また、このプロジェクトを通して、被災地の復興の手助けとなったことに加えて、香川大学からの参加学生の防災意識の向上につながったことが実感できました。現地では学生のみでの活動のため、自分たちだけで判断して臨機応変に対応するべきことが多くありました。また、熊本地震発生前から災害復旧支援団体として学生主体で活動していた熊本大学熊助組の学生たちと協力して活動させていただく中で、指示の出し方、事前準備、団体を運営していくうえでの体制づくり、被災者の方々とのコミュニケーションの取り方など、参考とするべき点が多くあり、ともに活動した香川大学生が各自の防災意識・活動に対する意識を向上させることができました。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、香川大学や地域社会に与えた影響として以下のものが挙げられます。

① 学内報告会によって学んだことの共有と防災意識の向上

現地での活動後の2017年11月16日に香川大学幸町キャンパス 611 講義室にて、現地で活動したメンバーが現地での活動で学んだこと、感じたことなどを報告しました。災害を風化させないために被災地の現状を伝えること、現地で活動して学んだことを学内の学生と共有することで香川大学生の防災意識、防災力の向上に貢献できたと思います。



活動後の香川大での報告会

② 学生防災士の成長により、地域の防災訓練・防災教育等のレベルアップ

活動に参加したメンバーのうち、2年生以上のメンバーは香川大学の防災士養成講座を受講し、防災士の資格を取得した香川大学防災士クラブのメンバーです。1年生の参加メンバーも防災士資格の取得を目指して防災士養成講座を受講しているメンバーです。普段は香川県内の小・中学校や自治会の防災訓練において防災士としてアドバイスをしたり、香川県内の災害時には被災地域の支援などを行ったりしています。今回のプロジェクトで経験を積んだ10名は、熊本県での活動後、防災士クラブの様々な活動において、率先して仕事を引き受けたり、問題を共有しあいながらそれぞれが最善の策を考えたりと防災リーダーとして必要な能力を発揮できるようになってきています。地域の防災リーダーとなる学生防災士が実際の被災地の様子を見て、支援活動を体験して成長することで、日ごろ活動している防災訓練の質が向上し、地域の防災力の向上につながっていると考えています。

学んだことを活かして地域に貢献する（活動例）



地域での防災訓練



香川県内の被災地支援

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

学生が被災地支援プロジェクトを企画運営することは今回が初めてのことであったため、用意周到な計画が必要でした。それに加えて現地ではうどんを急遽、釜揚げうどんから冷かけうどんに変更したり、予想より工作教室の参加者が集まらないということがあったりと臨機応変な対応が求められる場面が多くありました。そういった経験を通して、その状況で最善となる策を素早く決定し、全員で協力して行動する力を鍛えることができました。この力は防災士としての活動に限らず、問題解決能力として日ごろの学生生活に役立っています。

また、仮設住宅の方々との交流や熊助組の学生とともに活動する中で重要だと感じたことは、相手が何をしてもらいたいのかを考えて行動するということです。限られた時間の中で初対面の方々とは協力して活動するうえで、意思の疎通が図りづらい場面が多々ありました。しかし、計画を実行する前にあいまいな点を残さないようにすることや、活動の最中でも、情報伝達にミスがないようにしっかりと確認することなどによって無事に活動することができました。この経験は今後の学生生活において、周囲の人間と密に情報共有し、問題解決にあたるうえで大きく役立つと考えられます。

今回、仮設住宅の方々の話を聞き、現地で活動する中で各学生がそれぞれの進路、それぞれの専門の分野で防災や被災地支援に求められていること、残されている課題を知ることができました。それによって今後の学問への取り組み方、防災活動に対する意識、熱意をより高めることができました。



活動準備風景（熊助組との交流・情報交換）



仮設住宅の方々との交流
（子供からお年寄りまで）

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

本プロジェクトの反省点は、計画の甘さと結果の検証の不足です。計画を運営するにあたって、当初の計画では7月中に活動を実行しようと考えていましたが、現地のニーズ調査と詳細な計画を進めていくうちに、現地の小学生が夏休みに入っている時期のほうが良いという結論になり、開催時期を一か月遅らせることにしました。そのため、予定していた移手段が値上がりし、活動資金が足りなくなるという事態を招いてしまいました。結果的に、香川県内の地元企業（株式会社ナカノヤ中野うどん学校、大前食料品店、春日堂株式会社）からの支援や学内からの寄付をいただいたことにより無事活動

することができましたが、今後はこのようなことがないようにあらかじめ綿密な計画・調査を進めておきたいと思います。

活動を終えて、他の様々なプロジェクトの報告を聞くうえで、自分たちの活動には結果の検証が不足していたことを感じました。今後の活動では可能な限り、活動後にアンケート調査やヒアリング調査などを行い、自分たちの活動に対する評価と活動先に与えた影響を知ることで活動の効率的な改善に役立てていきたいと思っています。

上記の二つ以外にも活動中での報告・連絡・相談や、仮設住宅の子供たちとのかかわり方などいくつかの反省点がありました。忘れないように記録し、今後の防災活動、被災地支援において注意して見直して活動の質の向上を図っていきます。

今後の展望としては、以下の5つが挙げられます。

- ① 他大学との連携の継続・発展
- ② 四国内の他大学との連携強化（南海トラフ地震対応）
- ③ 今年度の活動を踏まえ、よりレベルの高い被災地支援や地域防災活動の企画運営を行う
- ④ 香川大学生の防災意識向上のための活動
- ⑤ SNSによる情報発信（ヤフー基金などの助成金申請の際に活用）

本プロジェクトを通して、私たちは学生防災士として求められていることを学びました。特に、熊本大学の学生と協力して活動する中で、活動時における注意点や防災団体を学生が主体となって運営して行くうえでのノウハウなど、参考にすべき点が多くありました。また、発災当時は大学生が主体となって大学の避難所を開設し、運営に携わったという話を聞いて、南海トラフ地震での甚大な被害が予想される香川県内で学生防災士としてレベルアップし、地域の防災力・防災意識の向上に貢献することはとても重要であると考えます。そのために今後は、香川県内の各地域の防災訓練での活動の活発化だけでなく、香川県内、四国内の各大学と協力して、合同防災訓練・平常時からの情報共有・災害時の連携などに努めていきたいと思っています。

7. 実施メンバー

代表者 松田 明子（工学部4年）

構成員 足立 夏海（工学部3年）

藤本 紗帆（工学部2年）

柴尾 葵（工学部2年）

福田 真紀（法学部2年）

富永 真布（法学部2年）

千葉 誠也（工学部1年）

川合 大地（工学部3年）

南 琴実（工学部2年）

岡田 真実（法学部2年）

伏見 和真（工学部2年）

明石 崇史（工学部1年）

協力団体 熊本大学・熊助組